

グローバル化の進展とともに、外国旅行などしなくても、私たちの日常的な経験のなかですでに異文化と出会うことが加速度的に増えています。異文化との関係はさまざまな問題を露出させ、私たちに異文化理解の努力と自文化への反省を促します。自文化といえども、そこにすでに異他的な成分が含まれています。とはいえ、新たな異文化は新たな異他性を示しつつ現われてきて、それがまた自文化に影響を与えます。文化はこのようにつねに異他的なものに関わる運動のなかにあるのですが、しかし、その速度が今や急速に上がっています。それゆえに間文化性が現代の喫緊の問題として問われます。間文化現象学研究センターは、間文化性を現象学という観点から解明し、そこに現われてくる問題への対応を求めます。そして、その研究活動から、あるいはその研究活動のなかで、新たな間文化状況に対応できる次の研究世代を形成していくことを目指します。

基本性格

- 間文化性を現象学の視点から解明する
- 研究者の間文化的な研究発表の場を整える
- 間文化的な仕方での研究発表の場を整える
- 次世代の研究世代を形成する
- 間文化現象学を軸として研究者の研究交流を図る

重点研究テーマ

言語

遭遇

精神

共存

時間

センター
としての
実績

学術シンポジウム

- 2011年11月 「精神と共存」
- 2011年 3月 「間文化性と人文学」
- 2010年 1月 「遭遇」
- 2009年 1月 「言語」

主な学術交流・研究機関

ソウル大学 (韓国)、中山大學 (中国)、アジア現象学研究センター (香港)、
主観性研究センター (デンマーク)、現象学研究センター (チェコ)、ケルン大学フッサール文庫 (ドイツ)、
ルーアン大学 (フランス)、メンフィス大学 (アメリカ) 他

センター長

谷 徹 (文学部・教授)

主な研究拠点

立命館大学 (衣笠キャンパス) 間文化現象学研究センター

お問合せ先

立命館大学 研究部 リサーチオフィス (衣笠) 内 間文化現象学センター事務局

TEL: 075-465-8225 FAX: 075-465-8245 E-mail: rcip@st.ritsumei.ac.jp
URL: <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/icp/index.html>